

令和6（2024）年度

女性教育指導者研修第1回 実施報告

実施日：令和6（2024）年 5月 29日（水）

女性教育指導者研修の第1回研修は、説明「研修概要とグループ研究の進め方」と演習「地域課題の現状と課題の把握」、そして「男女共同参画とは」と題して、国立女性教育会館の渡辺美穂国際研究室長の講話がありました。

説明・演習「地域の現状と課題の把握」

総合教育センター職員

はじめに、受講者の自己紹介や、本研修のねらいと研修全般についての説明、グループ研究の概要説明を行いました。

次に、地域課題解決のための取組として、地域課題解決学習を取り上げ、県教育委員会が作成した「地域元気プログラム」を活用した演習を行いました。今回は、子育てに関する地域課題をテーマに、資料の読み取りやグループでの話し合いを通して、家族の形が様々に変化していることに伴い、各家庭における子育ての事情、役割分担などが変化している現状を把握し、社会全体で子育て家庭を支えていくための課題について考えました。資料の読み取りを通して、共働き世帯の増加による女性の社会進出に伴い、妻と夫が協力して子育てをするようになったことや、以前の地域の相談役を今は行政が担うようになってきたことなどの話題で話し合いが進みました。また、グループでの話し合いを通して、子育て世代を支える方法として、地域での行政による子育て支援サービスを子育て世代に伝えていくことの必要性に加えて、子育て世代の要望を行政が吸い上げながら、双方の意見をうまくマッチングさせていくという考えや、地域と行政が連携して三世代交流の場を設定し、様々な世代の交流を促していけるとよいのではないかという意見も出されました。

受講者は、具体的な考えを積極的に述べながら熱心に話し合い、今後の研修に向けて意欲を高められたようです。



講話「男女共同参画とは」

独立行政法人国立女性教育会館 国際研究室長 渡辺 美穂 氏

渡辺氏は、「生涯学習・社会教育」「男女共同参画」「女性の人権とキャリア形成支援」等を専門としており、男女共同参画に関する基礎知識や国内外の男女共同参画の現状についてお話いただきました。

はじめに、GGGI（グローバル・ジェンダー・ギャップ指数）に基づいた男女共同参画社会に向けた日本と世界の現状、女性差別撤廃条約、ジェンダーの概念、男女共同参画社会基本法の目的と基本理念等、基本的事項について説明がありました。

次に、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）やジェンダー統計についての説明がありました。ジェンダー統計は、男女間の意識による偏り、格差や差別の現状及びその要因、その現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計であり、統計を読み取る際には、データの最新値に注目するのではなく、どのように変化しているのか注意深く読み取る必要があることを話されました。

講話の最後には、受講者一人一人が感想を述べました。男女共同参画がどのような経緯で進められたのか、そしてどのような課題があるのかなどについて理解を深めることで、今後の地域課題解決の一助になる新たな視点を得ることができました。



＜受講者の感想から＞

- 研修を通して、男女共同参画について、どのような経緯でどのような法律ができたのかなど、詳しく学ぶことができました。
- グループで課題を考えた時、一人では気付く事ができないことも、話し合いの中に答えがあることに気付いたり、意見をまとめたりする事ができると感じました。
- これから周りの人たちに思いやりをもって接していきたいです。
- 男性も女性も平等で差別なく過ごせる人生になれるように研修をがんばりたいです。
- 今後はアイコンシャス・バイアスを意識しながら生活したいと思いました。
- 男女共同参画社会になるのは難しいですが、少しずつ考え方の変化を取り入れて、地域（隣の家や周りの人達）で活動をしていくのが大切だと思いました。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp